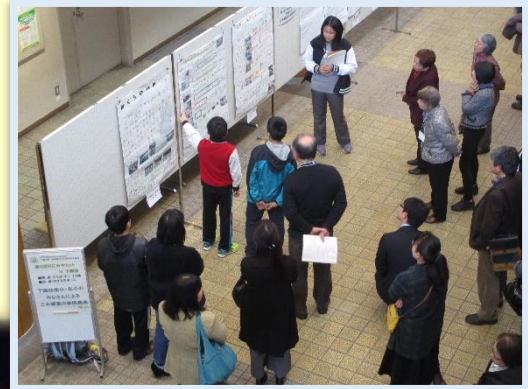




下諏訪町町制施行 125 周年記念事業

第4回 川ごみサミット in 下諏訪

報 告 書



全国川ごみネットワーク

下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会

目 次

1. 開催目的	1
2. 開催概要	1
3. プログラム	2
4. 報告	
■開会挨拶・趣旨説明	3
■あいさつ	4
■諏訪湖のこれまで（スライドショー）	5
■第1部 ＜世代をつなぐ＞	5
■第2部 ＜持続可能な活動をつなぐ＞	10
■まとめ	17
■閉会挨拶	17
5. 休憩・交流タイム	18
6. 湖岸清掃・エクスカージョン	19

オープニングでは、下諏訪町木遣保存会のみなさんが、「木遣り唄」を披露しました。



天下の大祭として知られる「御柱祭」は、正式には「諏訪大社式年造営御柱大祭」と言われる諏訪大社のお祭です。七年に一度の寅と申の年、社殿の造営と「御柱」と呼ばれる直径約一メートル、長さ約十七メートル、重さ約十トンにもなる樅の巨木を山から切りだし、人力で山から里へと曳き、最後に上社、下社の各社殿の四隅に建てます。

この御柱祭になくてはならないのが「木遣り唄」です。木遣りとは、御幣(おんべ)を高くかけ、天まで抜けるような澄んだ声で曳行の安全を願い、人々に勇気と力が出る様に唄うもので

す。この木遣りで人々の心が一つになり、御柱が動くのです。「木遣りなくして御柱は無く、御柱無くして諏訪はなし、木遣りにこそ御柱の華である」と言われています。

1. 開催目的

昨今、海洋プラスチック汚染やマイクロプラスチックなどがメディアで取り上げられるようになり、海のプラスチックごみについて関心が高まってきました。プラスチックごみは私たちの身近な生活と密接に関わり、川を通じて海へと流出します。この問題に立ち向かっていくためには、海に出る前に川や湖、街なかでのごみ発生抑制が重要となっています。

そこで4回目となる今回の川ごみサミットは、海から遠く離れた長野県諏訪郡下諏訪町で開催しました。下諏訪町は長野県のほぼ中央、諏訪湖のほとりに位置し、諏訪湖越しに見える富士山は葛飾北斎の富嶽三十六景にも描かれるなど、山紫水明の地として、また諏訪大社の門前町、中山道と甲州街道の交わる交通の要衝として栄えました。諏訪湖は人々の生活に深く係わり、産業・観光、そして文化を育みました。しかし、昭和30年代から徐々に水質が悪化。大量のごみが流れ込み、アオコの漂う緑色の湖に変わってしまいました。

諏訪湖が湖沼水質保全特別措置法に基づく指定湖沼に指定されたことを受け、長野県は昭和62年度に湖沼水質保全計画を策定し、下水道の整備、農地からの汚濁負荷量の削減等の施策を行ってきました。同時に住民の諏訪湖に対する思いも高まり、多くの市民、団体、学校などが独自の取り組みを開始し、諏訪湖は徐々にかつての姿を取り戻しつつあります。

数十年という長い年月をかけて培ってきた浄化活動は、平成30年に策定された「諏訪湖創生ビジョン」を生み出す大きな原動力となり、次のステップに向かって踏み出そうとしています。

下諏訪町では小学5年生・6年生を対象とした環境教育や水辺のごみ拾いを開始しました。諏訪湖の現状を知り、ごみが環境に与える影響などを五感で感じてもらうためです。次の世代に、郷土を愛しこれまでの活動を引き継いでいてもらいたいとの願いです。

今回の川ごみサミットは、『～世代をつなぐ、持続可能な活動をつなぐ～』をテーマに掲げました。小学生在が学んだこと、そして感じたことを切り口として、未来を担う子どもたちがどう思っているのか、私たちはそれにどう応えるのか、何ができるのかを考える場にしたいという趣旨でこのテーマを選びました。本サミットは下諏訪町町制施行125周年記念事業に位置付けて開催しました。第4回川ごみサミット in 下諏訪が、次世代を創り出す子どもたちが取り組むことで、未来へつなぐ第一歩となることを願っています。

2. 開催概要

- 日 程：2018年11月24日(土)
- 会 場：下諏訪総合文化センター あすなろホール
- 参加者数：130名
- 主 催：全国川ごみネットワーク、下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会
- 共 催：下諏訪町
- 協 賛：日本プラスチック工業連盟、一般社団法人プラスチック循環利用協会
- 助 成：公益財団法人河川財団 河川基金

3. プログラム

13:00	【オープニング】 下諏訪町木遣保存会
13:10	【開催挨拶・趣旨説明】 全国川ごみネットワーク 亀山 久雄 伊藤 浩子
13:15	【あいさつ】 下諏訪町長 青木 悟 さん 下諏訪町議会議員 林 元夫 さん 長野県議会議員 浜 章吉 さん
13:30	【諏訪湖のこれまで（スライドショー）】
13:35	【第1部 <世代をつなぐ>】 ○はじめに、諏訪湖の取り組み 信州大学名誉教授 諏訪湖クラブ会長 沖野 外輝夫 さん ○環境学習の事例発表 下諏訪町立下諏訪南小学校6年3組のみなさん < ディスカッション > ファシリテーター：信州大学名誉教授・諏訪湖クラブ会長 沖野 外輝夫 さん 下諏訪町長 青木 悟 さん 一般社団法人JEAN 事務局長 小島 あずさ さん 公益社団法人諏訪圏青年会議所 専務理事 牛山 光 さん 下諏訪町立下諏訪南小学校6年3組のみなさん
14:30	ー 休憩・交流タイム ー 下諏訪南小学校、下諏訪北小学校児童のポスター発表
15:00	【第2部 <持続可能な活動をつなぐ>】 ファシリテーター：NPO 法人パートナーシップオフィス 金子 博 さん 下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会 小口 智徳 (1)地域をつなぐ 日本電産サンキョー株式会社 総務部総務グループ 安藤 匠 さん 国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所 副所長 矢澤 聖一 さん (2)啓 発 諏訪湖ボーイズ&ガールズのみなさん ふるさと清掃運動会 顧問 亀山 久雄 さん (3)人をつなぐ 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 水環境管理係長 青地 絢美 さん 環境省 水環境課 海洋環境室 室長補佐 福井 和樹 さん
17:00	【まとめ】 NPO 法人全国水環境交流会 山道 省三 さん
17:15	【閉会挨拶】 下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会 大和 久子
18:00	【交流会】

4. 報告

■開会挨拶・趣旨説明

全国川ごみネットワーク 座長 亀山 久雄、事務局 伊藤 浩子

本日は多数お集まりいただきありがとうございます。

諏訪湖の清掃が 40 年継続されていると伺い、敬意を表します。

昨年の第 3 回サミットは保津川で開催しましたが、今回は下諏訪町での開催となりました。開催に至るまで準備をしていただいた下諏訪町を

はじめ、下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会（湖浄連）のみなさんに心より感謝いたします。ごみ問題の解決に向け、熱い論議を期待します。



これまでの経緯と今回の開催趣旨を紹介します。

2009 年、海岸漂着物処理推進法が制定され、海ごみの回収は進んできました。しかし、発生抑制、普及啓発はまだまだなのが実情です。川でごみを何年も拾ってもごみは無くならず、ごみを元から断つには一つの団体ではできないので、全国で活動している団体が連携する動きができました。2015 年に第 1 回の川ごみサミットを開催して以来、今回が第 4 回となります。以前は街なかで発生したごみが川を通じて海に流れ込むということを訴えてきましたが、このことは概ね理解されてきました。次はどのように対策するか段階となっています。

2018 年 6 月の G7 で、日本は海洋プラスチック憲章に署名せず、日本の取り組みは世界的にみても遅れていることが示されました。一方、国内でも海岸漂着物処理推進法改正、第四次循環型社会形成推進基本計画の閣議決定等の動きがあります。企業でもプラスチック

ストローの廃止が広がる等、この問題は多くの人に知られるようになってきています。

海ごみはいまや世界的な環境問題となっています。海ごみ問題の解決には、ごみが川に入る前に対策を取ることが大切で、諏訪湖のような源流域も含め、地域全体で発生抑制をしなければなりません。今回は小学生が地元で行っている活動の報告を行ってくれます。本日は参加いただいている全国の市民団体、企業・業界団体、行政、研究者等の方々と一緒にその解決策を考えたいと思います。

川ごみサミット開催		
・2013年市民団体間で、ゆるやかな連携・情報交換をスタート ・2015年全国川ごみネットワークを設立		
第1回川ごみサミット	第2回川ごみサミット	第3回川ごみサミット 亀岡保津川会議
(2015.1.23-24)東京	(2016.1.22)東京	(2017.3.4)亀岡市
第1回川ごみサミット宣言 ○第1 課題の共有と目標の設定 ○第2 解決に向けた方策の検討・立案 ○第3 行動プログラムの実行と社会的制度の整備・構築 これらの継続的な展開を行っていく		

■あいさつ

下諏訪町長 青木 悟 さん

下諏訪町は本年、明治26年に町制が施行されてから125周年にあたり、歴史や文化を再認識する年として位置付けております。

下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会の歴史は、下諏訪町が誇るべき環境活動の一つであり、今回の川ごみサミットが下諏訪町で開催されることを大変うれしく思っています。

昭和40年代から50年代の諏訪湖は、河川から多くのごみが流れ込み、アオコに覆われる死の湖でした。汚してしまった諏訪湖を昔のように泳げる諏訪湖に戻していきたいという思いが結集し、下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会が発足しました。長年にわたる清掃などを通じた地域や企業の努力、県による下水道の整備により、諏訪湖は浄化が進んできております。

しかし、アレチウリやヒシの繁茂等の新たな課題も出てきており、地域全体でこれからの諏訪湖をどうしていか考えていかなければならない時期にきています。

今回の川ごみサミットが次へのステップにつながる機会となるよう期待をしています。また、今回は小学生たちにも参加していただきました。次世代をつくる子どもたちがこの問題に取り組んで、次へとつないでいってくれることが重要ではないかと思っております。



下諏訪町議会議長 林 元夫 さん



下諏訪町では下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会が中心となり、住民と自治体とが一緒になって「よみがえれ諏訪湖」「諏訪湖にトンボを」を合言葉に活動、浄化が進んでいます。このことは他の自治体からも注目されております。

現在、プラスチックごみによる海洋汚染が問題になってきていますが、このサミットから、住民の手による環境汚染を止めようという運動がますます広がっていくことを祈念しています。

長野県議会議員 浜 章吉 さん

諏訪湖は山と緑に囲まれた長野県を象徴するものであり、水資源が豊かな下諏訪町の誇りです。

しかし、流域への不法投棄はまだまだ見られ、それが海ごみへとつながっていきます。長野県でも地域と連携しながらパトロール強化に目を光らせております。

このサミットが来年、軽井沢で開催される G20 環境相会議や全国の環境浄化に対する取り組みへの大きな起爆剤になることを確信します。



■諏訪湖のこれまで（スライドショー）

諏訪湖は長野県のほぼ中央にあり、昔からこの地域で暮らす人々に親しまれ、多くの恵みを与えてくれる存在でした。琵琶湖周航の歌を作詞した小口太郎は諏訪湖の周りで育ちました。この歌は故郷の諏訪湖を思いながら書いたものと言われていて、慕情を誘う、ふるさとの象徴でもあります。



湖岸線は約 16 キロメートル、面積 13.3 平方キロメートルという県内最大の湖で、流入河川は31、流出は天竜川のみです。湖が源流という河川は珍しいのですが、諏訪湖が天竜川の源となります。

かつての諏訪湖は、住民にとって大切な場所で、湖水浴や水辺での釣りを楽しみ、冬には氷上でスケートをする人や氷を割って行うヤツカ漁なども見られました。

しかし、幾多の氾濫を繰り返した諏訪湖の周りには、昭和 40 年代から治水のためにコンクリート波返し護岸が整備されました。親水性は損なわれ、水質も悪化。アオコは湖面まで盛り上がり、異臭が漂い、湖面や護岸にも多くのごみがたまり、いつしか諏訪湖は近寄りがたい存在になっていきました。

このままではいけないと住民が立ち上がりました。まずは自分たちでできることをやろうと、団体や企業、学校などが湖岸清掃を開始。行政も下水道の整備等をすすめ、水質は徐々に改善。水辺も人工渚に移り変わり、人々は諏訪湖に近づけるようになりました。ボートやウォーキング、花火見物や花を愛でながら散歩する人も多くなりました。



以前の姿を知らない子どもたちに「諏訪湖をどう思いますか？」と質問すると「汚い、臭い」という声が多く聞かれます。しかし、今の姿を取り戻すまでに長い年月と涙ぐましい努力がありました。少しずつ昔の姿を取り戻してきた諏訪湖。私たちはこれからも努力を続け、受け継いでよかったと思われる諏訪湖を次の世代に伝えていきたいと思っています。

■第1部 <世代をつなぐ>

第1部では、<世代をつなぐ>をテーマに据え、下諏訪町立下諏訪南小学校の児童たちが、環境学習を通じて学んだこと、疑問に思ったことを基にして大人たちと語り合う形式で進行了ました。

（諏訪湖の取り組み）

信州大学名誉教授・諏訪湖クラブ会長 沖野 外輝夫 さん

これまでの諏訪湖の取り組みを紹介します。私は諏訪湖に係わるようになって50年、諏訪に移り住んで45年になります。かつては下諏訪青年会議所が親子で行うトンボ作戦（羽化できないヤゴの数を調査）を行っていましたが、45年前には水質が全国ワースト1というひどい状況でした。富栄養化によりアオコが大量発生していました



が、2000年過ぎから改善されてきました。しかし、諏訪湖全体で見るとまだまだきれいとは言えませんでしたが、以前はもっとごみが散乱していて景観が悪くなかった。今の小学生に聞くとまだ汚いと感じているようですが、私は以前に比べれば良くなったと思っています。年代によって感じ方が違うようです。青年会議所から湖浄連が誕生し、浄化活動に力を入れてきて水質は段々と良くなってきましたが、それで直ぐに生物が戻るわけではありません。現在はその移行期にあります。諏訪湖創生ビジョンが策定され、諏訪湖では利用と保全の両立が課題になっています。未来に向けて、本日のサミットの成果を活かして欲しい。また、子どもたちの意見を大切にしてもらいたい。

（環境学習の事例発表）

下諏訪町立下諏訪南小学校6年3組のみなさん

私たちの下諏訪南小学校には中庭があります。私たちは、この中庭の環境をより良くしてもっと楽しい場所に整備して全校に楽しんで欲しいという思いで、みずべの時間（総合学習の時間）に中庭開発をすすめてきました。開発というと、環境を汚してしまいそうな感じがありますが、私たちは自然を壊さないという約束で活動をすすめました。

活動はいくつかの部署に分けました。

広報部は、中庭の活動の紹介、写真撮影、遊びに来られる日の設定、全校へのお知らせをしました。

環境部は、藻の除去や汚れをこすったり鳥の巣箱を作るなど、より美しい中庭にするために活動しました。全校にも、藻を取る体験や中庭ツアーに参加してもらいました。アスレチック係は、アスレチックを作って皆に楽しんでもらっています。木は全ていらなくなったものを使い、丸太跳びや平均台遊びができるようにしました。ものづくり係は、橋やマレットゴルフコースを作りました。橋はいらなくなった木材を使用し、マレットゴルフコースは、緑を避けて土の部分に作りました。

生物部植物係は、花を植え、花のクイズや花の折り紙で皆を楽しませ、花のことを知ってもらいました。魚係は、池の生き物を増やすように心掛けました。元々棲んでいるニジマスに加えて鯉を放流し、世話をしました。全校の皆もととても驚いています。



野外ステージ部は、きれいな中庭で楽しみながら音楽で癒されてもらおうと、中庭にステージを用意し、演奏会を行いました。廃材をもらってベンチを作成、座り心地のよいベンチができました。家の人と竹を使って流しそうめんを楽しんだこともあります。

環境も整ってきたので、今年度に入り、毎月20日を語呂合わせで庭の日とし、全校を中庭に招待することにしました。全校に呼びかけて来てもらった時には、予想以上に大盛況でとても楽しんでもらえました。

しかし、たくさんの人が来て大変なこともあ

りました。それは人が来ることでごみが落ちたり植物が踏まれるということ。そこで、通る道を決め、通行禁止の道を設けるなど、色々なアイデアを出し合いました。

そんな活動の中、環境学習で、たくさんのプラスチックごみが海に流れ出し、たくさんの生物が死んでいくことを学びました。マイクロプラスチックの問題です。自分たちの中庭の環境はとてもきれいなのになぜ、ここまでのごみがあるのかと少し残念に思いました。そこで、中庭から流れ出る川の行方を追ったり、その先の諏訪湖の環境を調べてみました。自分たちが見に行った古川、一ツ浜公園付近の諏訪湖は、ごみは少なく、思っていたよりきれいでした。

しかし、8月11日に行われた諏訪湖クリーン祭で、驚くべき光景を目の当たりにしました。たった数分間のごみ拾いでたくさんのごみを拾いました。やりがいはありましたが、この量は異常だと思いました。これだけのごみが海へ流れたらと思うと、恐ろしかった。身近な諏訪湖がこんなに汚れていて、とてもショックでした。いったい誰がこんなにごみを捨てたのだろう、どこからこのごみはきたのだろう、と疑問に思いました。美しい諏訪湖も、いざ近くに行ってみるとごみが多いのです。

問題、僕たちが諏訪湖で拾ったごみの種類で一番多かったものは何でしょう。

1. 紙くず 2. ピン 3. ペットボトル

正解は3のペットボトル。

では、僕たちが拾ったエリアで何個あったでしょう？

1. 100 2. 200 3. 300

正解は3。やはりプラスチック製品が多く捨てられていました…。

ここで僕たちがもった感想を率直に言います。

- ・きたない。
- ・毎年ごみが増えている。
- ・捨てる人が許せない。
- ・ごみがあることを知らせたい。
- ・ごみ捨て場のような岸。
- ・動物が食べたら大変。

次に僕たちができそうなこと。

- ・ごみをすてない。
- ・ごみを拾う。
- ・ごみは持ち帰る。

僕たちが思ったことは、

- ・大人はなんでタバコとかをポイ捨てするのですか？どうしたらポイ捨てがなくなりますか？
- ・使ったらすぐに捨てるのはどうしてですか？
- ・ごみを捨てないようによびかける看板をなぜ置かないんですか？

最後にみなさんへのお願いです。

危機感を持とう。自分の行動が生き物の命を奪う可能性があることを伝えよう。いつかこの問題が人間に帰ってくるかもしれません。

自分たちの未来は自分たちで作らなければなりません。明るく、住みやすい、そしてきれいな町にしていけるために大人も子どもも協力していけるべきだと思います。

みんなで力をあわせて日本の未来を、自分たちの未来を守りたいです。



(ディスカッション)

(ファシリテーター: 信州大学名誉教授・諏訪湖クラブ会長 沖野 外輝夫 さん)

(パネリスト: 下諏訪町長 青木 悟 さん、一般社団法人JEAN 事務局長 小島 あずさ さん

公益社団法人諏訪圏青年会議所 専務理事 牛山 光 さん

下諏訪町立下諏訪南小学校6年3組 芳沢さん、百瀬さん、田中さん)

(沖野) 子どもたちから質問が出されているので大人から回答していただきたい。「大人はタバコの吸殻やごみをなぜポイ捨てするのか」。

(青木) 全ての人が捨てているわけではありませんが、中には自分のことしか考えない人がいます。そういう人たちは環境や諏訪湖のことを考えていないからです。そういう人たちに清掃に参加してもらえたら、環境を考えるきっかけになり、ポイ捨てはしなくなると思います。

私自身も30年前に娘と清掃に参加したときに、吸殻を捨ててしまい、娘に怒られて恥ずかしかった。多くの人に参加してもらい、意識を変えてもらいたい。



(沖野) 次に「使ったら直ぐ捨てるのは何故か」。

(小島) 下諏訪南小学校の発表はすばらしかった。直ぐに物を捨てることは残念なこと。物を大事にしない人が増えてきていると思います。100円ショップの商品のように安いものが多いので大事にしない人が増えたのではないのでしょうか。最初から使い捨てを前提にした商品が多い、飲食物の包装容器、街なかにごみ箱がないことも原因です。物を買うときから、安さだけではなく繰り返し長く使えるものを選ぶことが大事。また、ごみが出たときは、家に持って帰って捨てるようにしましょう。

返し長く使えるものを選ぶことが大事。また、ごみが出たときは、家に持って帰って捨てるようにしましょう。

(沖野) 次に「捨てないように呼びかける看板をなぜ置かないのか」

(牛山) 下諏訪青年会議所の頃に看板を立てましたが、今では朽ちかけています。私自身も下諏訪北小学校で同じような勉強をして看板を立てました。それも劣化してなくなっています。看板は時間が経つと劣化してしまうので、看板より住民の意識を高めることが重要だと思います。

(沖野) 諏訪湖のごみ問題解決のためにどうしていけば良いか。何か目新しいことは。

(青木) 諏訪湖の上流域の市町村や県が意識をそろえてきれいな環境を保つことが大事です。きれいな場所にはごみを捨てにくい。そして、諏訪湖に近



づき、実際に触れることが重要。ごみは以前に比べて減ってきましたが、今後は下諏訪港の活用、ボート競技などの活用を検討したい。

(沖野) 諏訪圏青年会議所では何か考えはありますか。

(牛山) 9月22日に諏訪湖清掃を行いました。普段はあまり住民が来ませんが、親子で参加すると遊覧船に無料で乗れるようにしたところ大勢の人が来ました。船上では勉強会も行いました。青年会議所も湖浄連と40年協力しながらやってきたので、この協力関係を続けていきたい。

(小島) 私は普段海のごみに係ることが多い。山形県の飛島では清掃ボランティアを本土側で募集し、船代もボランティアが払う仕組みでやっています。それでも1日で募集枠が埋まります。同様の仕組みが新潟県の粟島、山口県長門にも広がっています。このように諏訪湖から流れ出る天竜川下流とも交流ができればと考えます。



(沖野) 諏訪湖はその圏域全体との協力、天竜川流域との協力も大切にするべきです。次は子どもたちから大人に直接質問してもらいたい。

(芳沢) 諏訪湖には何故ごみが多いのですか。リサイクルすれば良いのではないのでしょうか。

(青木) 確にごみは多いが、以前より減っています。再利用は大事ですが、それにはきちんとした分別が必要。下諏訪町では、生ごみの分別回収が進んでいて、現在は約1,700世帯が協力してくれています。これを全世帯に広げていきたい。

(沖野) リサイクルの前には分別が必要。面倒かもしれませんが、それを乗り越えなければなりません。

(百瀬) 諏訪湖清掃の回数を増やすと良いと思います。

(牛山) 諏訪圏青年会議所でもそのように考えています。子どもが勉強して親に伝えたと、親がハッと気づくことが多くなります。

(田中) 諏訪湖の周りに自動販売機やごみを出すものを置かない方が良いのではないのでしょうか。

(沖野) 確かに、自動販売機が置かれてからごみが増えたという報告もあります。



(小島) 買われたものがごみにならない仕組みと合わせて考える必要があります。自動販売機の90パーセントには横に空き容器回収箱が置かれていますが、折角設置をしても撤去されることがあります。容器と関係がないごみが放り込まれることが多いからです。諸外国では水筒を持っていけば給水できるところもあります。日本もオリンピックまでにこのような場所を増やすべきです。

(沖野) 尾瀬にごみ箱を置いたら、ごみが増えたので撤去したという報告もあります。その後どうなったかは分かりませんが、ごみは持ち帰りが基本です。

会場から何か意見はありますか。

(原田/NPO 法人プロジェクト保津川) 自動販売機の横に容器回収箱を置いたのは京都が最初。海外では水筒を持参する習慣があったり、マイボトル用の自動販売機があります。奈良県吉野では、現在ある自動販売機を更新することはダメで、古くなると撤去しなければならない。ただし飲み物を売っても良いので、おじいちゃん、おばあちゃんに売ってもらっています。このような仕組みを作ると高齢者も元気になります。



(青木) 今の話は非常に大切です。行政の規制や条例制定は難しいけれど、そのようにしないといけな時代になってきました。便利さを優先して、人同士の対面が無くなってきています。しかし、人同士が対面し、言葉を交わすことが大事です。

(沖野) 排出されるものをごみと考えず、資源であると多面的に考える必要があるのではないのでしょうか。

(金子/NPO 法人パートナーシップオフィス) 環境省は、小中高生の教材を作りましたが、今日の発表のように子どもたちが大人に向ける教材を作ってみるのも良い。

(沖野) すばらしい発表、大人たちに質問をしてくれた小学生の皆さんに感謝します。

■第2部 <持続可能な活動をつなぐ>

第2部では、(1)地域をつなぐ、(2)啓発でつなぐ、(3)人をつなぐ 以上3つのサブテーマを設け、それぞれ関連する2名より話題提供をいただきました。その後、参加者全員で意見交換を行いました。

(ファシリテーター：NPO 法人パートナーシップオフィス 金子 博 さん、下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会 小口 智徳)

(金子) 第4回川ごみサミットは「つなぐ」がキーワードです。「つなぐ」とは、世代をつなぐ、活動をつなぐ、を



意味します。活動をつなぐとして、第2部では、地域をつなぐ、啓発でつなぐ、人をつなぐの小テーマで、会場のみなさまを含めてお話をしていただきたい。私は、天竜川の脇で生まれて、現在は山形の酒田に住んでいます。河川環境など環境問題の市民運動に関わって40年経ちます。

(小口) 岡谷で生まれ、育ち、今も住んでいます。湖浄連の事務局を務めたのをきっかけに15年活動を継続しています。地元の立場として話題を提供したい。

(1) 地域をつなぐ

話題提供 1) 日本電産サンキョー株式会社 総務部総務グループ 安藤 匠 さん



2002年から諏訪湖アダプトプログラムを実施、本日はその紹介をしたいと思います。会社は1946年設立、従業員は13,000人。モータ、モータ駆動ユニット、カードリーダー、産業用ロボット等を製造しています。身の周りの製品の目に見えない部分に使われています。

アダプトプログラムは諏訪湖畔のごみ拾いで、2002年から年4回実施、1回当

たり20～25名が参加しています。ごみの種類はペットボトルを含むプラスチックが1位。アダプトプログラムの目的は、生物多様性の保全、社員の諏訪湖との関わりの創出、社員同士の交流です。新入社員の参加、部署や役職を超えた参加が重要で、全体的に積極的に参加しています。

2018年9月までに66回開催され、延べ1,300名が参加。諏訪湖に加え、会社構内の川の清掃も実施しています。

2. 諏訪湖アダプト活動内容



諏訪湖アダプトプログラムの目的

- ① 環境、社会との調和(生物多様性の保全)
- ② 社員の諏訪湖との関わりの創出
- ③ 社員同士の交流の場

そのために必要なことは



- ◇ 新入社員の参加
- ◇ いろいろな人(部門役職年齢等)の参加

話題提供 2) 国土交通省中部地方整備局 天竜川上流河川事務所 副所長 矢澤 聖一 さん

「笑顔きらきら天竜川」という謳い文句で仕事をしています。川の事業は、自然再生と砂防事業です。砂防施設では、今年の台風21号の際に、上伊那郡飯島町の与田切川に設置されている砂防堰堤が下流の被害を防ぎました。

(安藤) 湖岸に漂着したものは取れますが、浮いているものは見えていても取れず、もどかしい。外来植物は今後の課題だと思います。

(小口) ごみの質が昔と比べて変わってきています。昔は大きなごみが多かったが、最近は細かいごみが多い。限られた地点で集中的に清掃するか、広域で清掃するかが課題です。外来植物の除去については、あまり徹底されていないのではないのでしょうか。

(矢澤) 以前は、ごみ問題で上流と下流の仲が悪かったが、アレチウリがきっかけで協力する関係になってきています。

(小口) 諏訪湖では、沿岸の2市1町が一斉清掃を行うこともあります。連携は非常に大事で、諏訪湖創生ビジョンでごみ問題のワーキンググループを設置しているので、今後考えていきたいと思います。

(2) 啓発

話題提供 3) 岡谷東高等学校 諏訪湖ボーイズ&ガールズ(3名)



地元の高校生を中心に諏訪湖の清掃を行っています。きれいな諏訪湖と、生物が過ごしやすい環境を目指しています。マラソン大会で諏訪湖が臭かったので、快適に走りたいという思いから活動が始まりました。以前にワカサギが大量死したことがあり、気になっています。諏訪湖清掃の時には、お楽しみ会やスポーツごみ拾いで量を競ったりフリーマーケット

で資金を集める等の工夫をしています。第1回の清掃には17名参加で60kgのごみを回収、第2回は20名が参加し、40kgを回収しました。

諏訪湖についてのアンケートを岡谷東高校内で行ったところ、汚い、臭いという負のイメージが多かった。泳ぎたいかという問いには、「泳ぎたい」が40%のみでした。諏訪湖でやって欲しいことは、水上レストラン、ディナークルーズ、羽生結弦さんのスケートショー等でした。今後は諏訪湖を泳げる湖にすることが目標。

しかし、人手が足りないので、沢山の方に活動を広めていきたい。



話題提供 4) ふるさと清掃運動会 顧問 亀山 久雄 さん



ふるさと清掃運動会は、ふるさとの山、川、海をきれいにしようという全国的な運動で、王貞治さん、野口健さん等が呼びかけ人となっています。12年間で約26万人が参加しています。学生ボランティアが企画・運営の中心となって活動しています。東京の河岸にはホームレスが住んでいて、清掃には喜んで一緒に参加してくれました。ごみを拾った人は捨てない。そういう人たちを増やしていきたい。では、どのように増やすかが課題で、例えば、ごみ拾いの前に少年野球教室や釣り教室を行うことで参加者が広がります。縦の広がり、横の広がり何れも重要です。福岡の遠賀川では、流域の全市町村が一斉清掃を行っています。それでつ

ながりを感じられています。環境学習も含めたこのような活動をもっと広げていくことだと思います。諏訪湖周辺の横のつながりに加え、流域の縦のつながりを広めるなどの運動を続けていくのが大事ではないでしょうか。

(小口)諏訪湖ボーイズ&ガールズは人手不足とのことですが、どうやって人を求めているのでしょうか？中心は高校生ですか？

(諏訪湖ボーイズ&ガールズ)他の高校にもチラシを配る等で呼びかけ、他にも広げています。

(亀山)ふるさと清掃運動会の中心は大学生で、都内の20大学から幅広く参加しています。

(小口)若い世代につなげていくことがこれからのテーマ。スポーツごみ拾いについて助言いただきたい。

(柴田/美しい山形・最上川フォーラム)私は山形から来ました。今年は1,000人(25回)が参加したスポーツごみ拾いで生命保険協会が募集した第1回スポーティライフ大賞をいただきました。ごみの点数をその時々で変えるので、参加者チームは何処にごみがあるか、どのごみを狙うかなど作戦を立ててごみ拾いを行います。このように楽しくごみを拾うのが大事。ごみを拾うのは格好いい。悪い人を作るのではなく、格好いい人を増やすことをすすめていこう。諏訪湖では、特産品である例えばワカサギが日本一となれば、地元経済も良くなります。地元イメージを良くすることで、誇りを持てる地域づくりとなるのではないのでしょうか。

(原田/NPO法人プロジェクト保津川)ポイ捨ては世界的には5%、日本では2%とされています。拾う人を5%に増やせば良い。亀岡で婚活イベントとしてごみ拾いをやったところ、「サクラ」が参加しないのでカップル成立率が高い。地域の特性を活かし、ごみ拾い＋お茶会を開催したこともあります。15,000円の参加費がかかるが、北海道等遠方からも参加者がありました。楽しいことやワクワクするようなことを増やして、ごみ拾いを継続していきたい。

(小口)子どもたちへの啓発について情報を。

(萩田/諏訪湖ロータリークラブ)当クラブは来年創立35周年を迎えます。小中学生、ガールスカウト等と一緒に清掃活動を行ってきました。以前は子どもたちの参加者が多かったが、近頃減ってきており、高齢者の参加が増えてきました。2年前から、諏訪湖クリーン祭の際に諏訪湖の湖上観察・環境学習会を実施することで参加を呼び掛けた結果、子どもたちの参加が多くなってきました。子どもたちと共に清掃活動を行い、次世代にバトンタッチしていかなければならないと感じて活動しています。



(小口)ごみ拾いに行ったら楽しいことがあると、活動が進みます。横のつながりとのことでご発言を。

(永井/NPO法人スペースふう)山梨から来ました。ロビーで小学生の発表を見て、若い人の力の凄さを感じ希望が湧きました。「ごみを増やさないで欲しい」と子どもの発言がありました。山梨県内の市町村長に話を伺いましたが、拾うだけでは根本解決にならず空しい。モラルで解決できる問題ではなく、国が規制して欲しいと考えているとのことでした。レジ袋禁止のようにごみを断つことも必要です。山梨では、山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト(通称 Yama・P)を開始しました。県内の市民から動き出したところ山梨県の森林環境部も参加してくれ、今後は企業も参加予定です。山梨に限らず、長野、静岡とも一緒にやっていきたい。



(小口)啓発では、若い世代につなぐこと、横だけではなく縦にもつなげる連携が大切です。活動する姿を見

せ続けることが重要ではないでしょうか。

(金子)川ごみサミットは拾うことが焦点ではなく、どうやって発生源対策につなげるか、環境省や国土交通省との連携を大事にしています。背景には、海岸漂着物処理推進法の制定や改定の際に民間団体が動いて法律ができてきました。その流れの中で、川ごみをどうしようかという経緯があります。

(3)人をつなぐ

話題提供 5) 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 水環境管理係 係長 青地 絢美 さん



国土交通省の川の環境の取り組みとしては、自然再生、川に親しむ水辺整備、水質浄化などの水環境整備の 3 つがあります。川を扱う法律である河川法に基づき河川管理を行っています。河川法は当初治水を目的としていましたが、次には渇水対策としての利水の視点が加わりました。さらに平成 9 年の河川法改正で、川の生態系や河川環境の保全が加わりました。洪水の後は、橋脚や河川管理施設にごみが堆積し、環境や景観の悪化を招くだけでなく、洪水の流下阻害、施設の操作等管理への支障等の問題が発生します。

街の中など、流域のごみは、水路等を通じて、河川に流入します。国土交通省も、河川管理の一環として、河川敷のごみ回収、排水機場のスクリーンに溜ったごみの回収、不法投棄禁止の看板設置、監視カメラ設置等を行っています。全ての 1 級河川に設置されている水質汚濁防止連絡協議会等を活用して、情報共有を行ったり不法投棄発見時の連絡体制を確認したりしています。普及啓発として、ごみマップの作成や出前授業、河川ごみ清掃、河川ごみ調査、清掃リレー等も行っています。河川管理者としても住民のみなさんと協力し取り組んでいきたい。



話題提供 6) 環境省 水・大気環境局 海洋環境室 室長補佐 福井 和樹 さん



海岸のごみ清掃では、自治体・市民・企業などと連携し、年間 3 万 t のごみを回収しています。ここでは国全体の政策取り組みを 4 項目に分けて紹介します。

(1)プラスチック資源循環戦略の策定

循環型社会形成推進基本計画に基づき、来年 6 月までに戦略を定める予定。基本原則としては、3R をさらにすすめることと、Renewable としバイオマス由来のプラスチック活用など持続可能なものをすすめます。リデュースとしても、2030 年までに、使い捨てプラスチック容器を 25%減らしていこう等と議論されています。

(2)海岸漂着物処理推進法の基本方針の変更

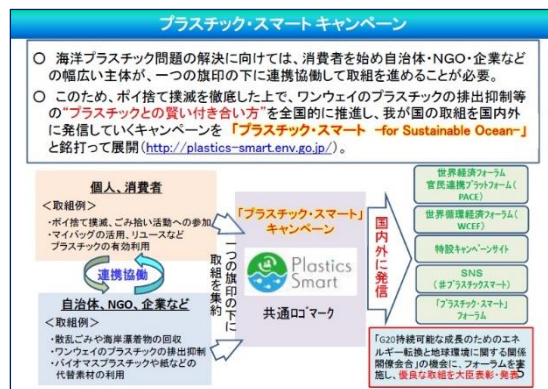
海岸漂着物処理推進法が 2018 年 6 月に改正されたことを踏まえ、関係する基本方針の改定を検討しています。改定案では、海底ごみや漂流物の対策推進、マイクロプラスチック対策としての排出抑制、全国規模での連携強化、国際的な連携の強化として世界的に取り組んでいくことなどが考えられています。

(3)自治体連携による発生抑制対策モデル事業

流域全体での様々な主体の連携による発生抑制対策が重要です。モデル地域として、伊勢湾流域の三重県、愛知県、岐阜県で、どのような行動がごみの排出抑制となるかを議論し実証し取り組んでいきます。また岡山県のような単一県流域での取り組みモデルもすすめています。

(4)プラスチック・スマートキャンペーン

現在話題となっている海洋プラスチックごみ問題を一人でも多くの人に知っていただくためのもの。スマートにプラスチックとの賢い付き合い方をしていくことについて、市民、自治体、企業などでの良い取り組み事例を登録いただき、広めていきたい。WEB サイトに登録いただき全国そして世界にも発信。ご協力をお願いします。



(金子)この問題の解決には「人と人をつなぐ」ことが大事。業界団体も含め考えていかなければならない。

(久保/プラスチック容器包装リサイクル推進協議会)以前からこの件について、環境省、経済産業省と意見交換をしてきました、この問題の当事者です。我々事業者が製品を供給する責任と、どのようにごみの排出抑制、資源循環、持続可能な素材にしていくかという大きなテーマがありますが、前向きに取り組んでいます。「ワンウェイのプラスチックの排出抑制」とありますが、具体的にどうするのか。ワンウェイプラスチックを使わないのか、最低限供給するのが難しい問題であり、明確ではありません。例えば、マヨネーズの容器は高機能で、食品ロスに貢献しています。バイオプラスチックについても使用後の処理はまだきちんと検証できていません。マイクロプラスチックについては、科学的な知見がまだ検証されていない面もあります。また、「犯罪行為であるポイ捨て」防止と言われるようになり、時代の転換点を迎えています。プラスチックの機能を理解いただき、利便性を維持し資源を守ることを連携してすすめたい。事業者として供給責任、社会に対する責任を果たしながらどのように環境を守っていくか、できることをきちんとやっていきたい。

(宮澤/ペットボトルリサイクル推進協議会)事業者には供給責任があるので、プラスチックとの賢い付き合い方が重要で、外にも伝えていかねばならないと考えています。プラスチック容器を今の時点でガラス容器他に変えると、CO₂の排出が2〜3倍になるというヨーロッパでの試算もあり、簡単にはいきません。ポイ捨てされないようにすることと、回収することの両方を考えなければなりません。プラスチックとの賢い付き合い方を考える必要があります。事業者としてやるべきことを考えていきたい。



(金子)川ごみサミットは4回目となり深い議論ができるようになってきました。それは、今回事業者の方に参加していただき、環境省の動き等も理解していただいたからだと思います。発生源対策をどのようにとるかという議論を漸く始めることができます。プラスチック・スマートキャンペーンには、他省庁は入っていないのでしょうか？

(福井)経済産業省、農林水産省、国土交通省、消費者庁とも連携しています。例えば農林水産省では、先ほど話題の食品ロスの削減等の検討も連携し行っています。

(金子)政府調達で何を使うかは影響が大きい。例えば川の流量調査で使う機器にプラスチックを避けることもできます。何か工夫はありますか？

(青地)使用する側の検討としてはあり得ますが、今はそのような動きはありません。管理者側としてはイベント会社にごみをきちんと持ち帰ってもらうということは考えられています。

(福井)公共調達にはグリーン購入法があり、その方針に従い、リサイクル素材を使った製品を使う等の行動を促進したい。

(中川/文化庁)Yama・P の所でも話に出た山梨県が取り組みに力を入れたら、逆に相模川や道志川の下流に位置する神奈川県が後退したと聞いています。自治体間で温度差が広がっているようだが、それに対する支援メニュー等はあるのでしょうか？ 現状を知りたい。

(日向/桂川・相模川流域協議会)桂川・相模川流域協議会では、相模川の流域全体で活動しています。源流から相模湖、神奈川県内の相模川、河口までの市民会員は、啓発活動、ごみ回収、マイクロプラスチック調査等を積極的に行っています。山梨、神奈川の両県とも、関係部署は積極的で協力体制が取れています。川ごみに関しては、神奈川県は資源循環の担当で、山梨県とは部署が異なっていますが、調整をとっているとのこと。協議会には流域の全自治体が加盟し、神奈川県でも、河川関係の部署はかなり積極的に活動しています。



(金子)担当の部署によって得ている知識に違いがあるのでは。どうしても縦割りになってしまいます。部署が違うなりに工夫しながら話をするというのが基本ではないでしょうか。

(福井)流域全体での連携には、地域それぞれの仕組みや工夫を大切にする必要があります。各現場でうまく連携するには、行政だけではなく市民団体や企業とも協力して工夫することが大事です。行政内部でも、海岸漂着物処理推進法の改正を受けて、流域全体で協力することが重要だということが議論されています。先ほど紹介したモデル事業は、流域全体で協力するには、どうすれば効果的かということを検討するものになっています。この取り組みの中でも優良事例を取り上げて、それを推進していくようにしたい。

(金子)流域でつながっているところは県の中でも一部の地域なので、県全体からは、流域だけの課題というように思われてしまうことがあり、難しい問題です。このことは、県、流域それぞれの内部で整理しないといけないことではないでしょうか。天竜川ではどうですか？

(小口)天竜川は人のつながりがあります。天竜川ゆめ会議はウミガメの放流等で河口に行っています。

(橋爪/NPO法人天竜川ゆめ会議)岡谷市のこどもエコクラブと天竜川河口の遠州灘に行きウミガメの放流を行いました。ウミガメが日本の海岸に来て、プラスチックを誤食して死ぬという報告があると聞きました。諏訪湖から海まで、広い目で流域を眺めてごみのことを学んでいます。先ほど、ロータリークラブの方がおっしゃったが、私は逆に若い人の参加が多くて凄いなと思っています。35 年活動されているとのことですが、諏訪の方は 1,200 年の伝統的な祭りを守っているくらいだから、35 年の活動というのは苦もなくできているのでしょう。諏訪の方の継続性にはいつも感心しています。



(阿宮/徳島県庁)非常に有意義な会議に参加させて頂き、感謝しています。今日話題になっているアドプトプログラム発祥の地は徳島県神山町です。県内では、平成 29 年度には 90 団体、3,600 名まで広がりま

した。県を貫く吉野川を守る吉野川交流推進会議では、活動する方の固定化や高齢化が問題となっています。県では海岸漂着物に対する取り組み方針を定めました。円滑な処理も大事ですが、発生抑制がより大事です。また、海岸だけではなく、道路や山からごみが多く発生するので、不法投棄対策がまず第一と考えます。環境指導課は、ごみ対策に取り組んできましたが、不法投棄とポイ捨ての防止の前に、啓発、情報共有が必要です。日本プラスチック工業連盟のアンケート調査によると、ポイ捨てと海ごみとのつながりを知っている若者は 40% だけ。まずは情報共有をして知識を拡げる必要があると考えます。

(小口) 皆さんの活動をいかにして次世代につなぐのかについてそれぞれの立場で紹介していただきました。次のサミットで新たな提案ができるように、皆さんの活動をつなげていただきたいと思います。

■まとめ

NPO法人全国水環境交流会 代表理事 山道 省三 さん



長時間お疲れさまでした。本サミットは今回で 4 回目になりますが、ごみの問題の課題が明確になってきました。諏訪湖だけでなく、全国の水辺共通の課題です。事例を沢山集めて勉強することで元気になります。次の機会には、事例を集めて自慢し合う、課題を出し合い議論することができると良い。それぞれの思いが違うので、それを出し合って課題を埋め合わせ、「いい川」ということについて意見を出し合いエネルギーにしましょう。

今回は、小学生・高校生の若い子たちが参加したことが画期的でした。

気になったのは、子どもたちが大人の言葉で語っている。「環境に悪い」、「水質が悪い」等は自分たちの本当の感覚の表現であるのかわからない。子どもたちが体で感じられる体験を大人がつくるような仕掛けが必要ではないでしょうか。川が変容していった昭和 30 年代、裸で遊んでいた川が変わっていったことに対する怒りがいい川を作る運動のエネルギーになっていった。静岡の桶ヶ谷沼のトンボのサンクチュアリでは、トンボを採ってはいけない(ただし小学生以下は自由)という看板がある。子どもはどんどん採り、大人は、子どもが採っても良い環境を維持していくという発想です。子どもの文化は水と火あそびで、昔は川に入って遊んだり、たき火をしったりしたものです。大人が制約するのではなく解放してあげるのが大切です。

スポーツごみ拾いが紹介されました。ごみ拾いは地味なまじめなことだけではなく、ステキなことです。マイカップは、個性、ファッションで格好いいと考えたら実行し易いし、文化にもなります。ごみ拾いをファッション、文化にまで高めるよう啓発されるといい。住民だけではなく、企業にも参加して欲しい。社会貢献だけでなく、利益、企業文化につなげて欲しい。

■閉会挨拶

下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会 副会長 大和 久子



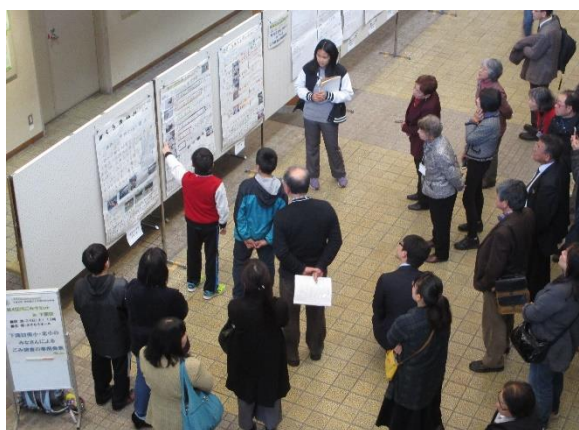
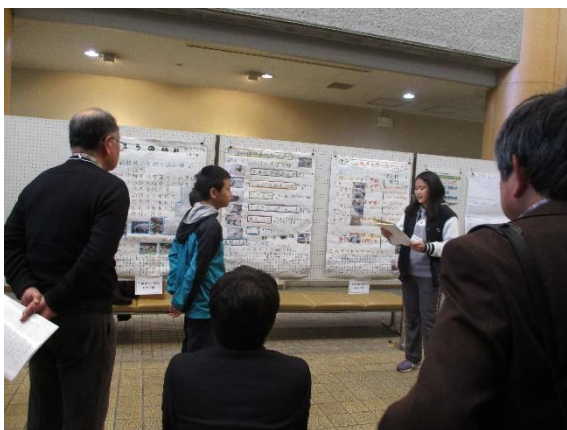
このサミットを下諏訪町で開催でき、多くの方が参加してくれて、非常に嬉しい。盛り沢山で貴重な話を伺い有意義な時間でした。マイクロプラスチックは、他人事のように捉えられがちですが、実は身近な問題で、自分たちも汚染していることもあるとの認識を持って行動しなければならないと感じました。このことを踏まえて今後の活動につなげていきたい。本日はありがとうございました。

5. 休憩・交流タイム

会場となった下諏訪総合文化センターのエントランスには、下諏訪町立下諏訪南小学校、下諏訪北小学校のみなさんが環境学習活動の発表として作成した模造紙 16 枚を掲示しました。休憩時間は「交流タイム」となって、児童たちに活動の様子などについて直接話を聞きました。



下諏訪南小学校は、それぞれの模造紙の前に立つ児童たちが、諏訪湖のごみを減らすためにできることとしてグループで考えた内容や、壇上での発表内容などについても詳しく説明してくれました。



下諏訪北小学校は、活動の様子などを皆の前で順々に発表し、話を聞く人たちの大きな輪ができました。学校のすぐ近くを流れる砥川を児童が親しみ大切にしている様子が伝えられ、発表を聞いた参加者からの感想や質問にも答えてくれました。



(下諏訪南小学校 6年2組)



(下諏訪北小学校 6年1組)

6. 湖岸清掃・エクスカーショ

サミット翌日の11月25日(日)は、諏訪湖に面した下諏訪町赤砂崎公園駐車場周辺で湖岸清掃が開催され、地域住民のほか、サミット参加者も大勢参加しました。

湖浄連では、月1回の湖岸清掃をほぼ毎月行っていて、毎年のべ1,000名を超える住民が参加しています。今回は川ごみサミットの一環として開催し、120kgのごみを回収しました。ごみ調査の結果を元にしたふりかえりを行うなど、実際に清掃をしながら諏訪湖のごみ問題について考えました。



湖岸清掃後、事前申込者を対象に諏訪湖の周辺を回るエクスカーショ(見学会)を行いました。

諏訪湖は岡谷市、諏訪市、下諏訪町の2市1町にまたがっています。エクスカーショでは、諏訪湖から天竜川が流れ出る地点に位置し天竜川の起点となる「釜口水門」、水陸両用バスに乗って諏訪湖上をクルーズする「諏訪湖ダックツアー」、全国各地にある諏訪神社の総本社である「諏訪大社下社」の秋宮及び春宮や、春宮の近くに立つ野仏「万治の石仏」、諏訪地域で7年に一度行われる「御柱祭」を紹介している「おんばしら館よいさ」を見学しました。

参加者は諏訪湖を中心とした諏訪の自然や文化について理解を深めました。





第4回川ごみサミット in 下諏訪報告書

2019 年 2 月

全国川ごみネットワーク

〒132-0033 東京都江戸川区東小松川 3-35-13-204
TEL:03-3654-7240 FAX:03-3654-7256
<http://www.kawagomi.jp/> E-mail:kawa53@kawagomi.jp

下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会

〒393-8501 長野県諏訪郡下諏訪町 4613 番地 8 下諏訪町住民環境課生活環境係内
TEL:0266-27-1111(代) FAX:0266-28-1070
<http://www.kojouren.jp/> E-mail:kojouren@town.shimosuwa.lg.jp



河川
基金

公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

この事業は「下諏訪町町制施行125周年記念事業」の一環として実施しました

*この印刷物は再生紙を利用しています